

「約110年前のグラブ」

1845年、アメリカで現代につながるベースボールのルールが誕生しました。当初グラブは存在せず、バットとボールだけで行われていました。フェアフライをワンバウンド捕球した場合もアウトだったのが、1865年にはノーバウンドで捕球した時だけアウトになるなど、徐々にルールが整備され、プレーが激しくなると、1870年代には、手を保護するための用具としてグラブやミットが使われるようになります。

写真は1900年ごろのアメリカ、ゴールドスミス社製の革製のグラブです。サイズはタテ

19.5cm、ヨコ17cm、手首の部分の幅は9.5cmと大変小さく、また現在の重さは、古くなって乾燥していることもあって65gと軽いものです。特徴的なのは、受球面の親指の付け根から小指側にかけて付けられた“ふくらみ”です（現在のグラブの“土手”に相当するでしょうか？）。これは、ボールをつかみやすくするための工夫で、「手を保護するための用具」として使われるようになってきたグラブが、「捕球のための用具」へと進化していく痕跡といえるのではないのでしょうか。

その後、ウェブが付けられ、平らな形状からポケットの深い立体的な形状になるなど、グラブは大きな進化をへて、現在に至っています。

